

岩手県重症心身障害児(者)を守る会

第123号

TSK

## 会報 愛の手

編集者 岩手県重症心身障害児(者)を守る会

〒020-0831 盛岡市三本柳8-1-3 ふれあいランド岩手内

☎019-601-2255 FAX 019-601-2255(共有)

E-mail mamoru2255@gmail.com

発行者 東北障害者団体定期刊行物協会

宮城県仙台市青葉区角五郎1-12-6

守る会の  
三原則

- 1.決して争ってはいけない 争いの中に弱いものの生きる道はない
- 1.親個人がいかなる主義主張があっても重症児運動に参加するものは党派を超えること
- 1.最も弱いものをひとりももれなく守る

## 新年を迎えて

岩手県重症心身障害児(者)を守る会会長 齊藤 勉



明けましておめでとうございます。新春の到来を会員の皆様とともに心からお慶び申し上げます。新たな気持ちで今年も実りの多い一年となるよう想いを巡らしておりました矢先、元旦の夕方に石川県能登半島地震が発生し、翌2日に羽田空港で飛行機同士の衝突事故と、二日続けて自然災害と事故が起こり唖然としました。地震災害で亡くられた方々には心よりお悔やみ申し上げます。被災されました皆様にはお見舞い申し上げます。被害の拡大が

懸念されますので、被災地に寄り添い、一刻も早く平穏な生活を取り戻せるよう祈念致します。

さて、去年は、3年ぶりの東北ブロック大会・岩手大会が9月29日～30日に花巻市新鉛温泉「愛隣館」で開催されました。久しぶりの開催でありましたので、戸惑いもありまして反省すべき点多々ありました。

初めての試みとして、ハイブリッド（WEB配信）を導入し、対面参加できない方々の大会参加機会を促進する手法の一環として実施しましたので、今後開催する各県支部でも展開して頂きたいと思えます。

基調講演は国立病院機構釜石病院院長土井守先生による「重症児者病棟を20年経験して思う事」の講演で先生の重症児者に対する深い造詣、と国立釜石病院の療育の大方針が「楽しいか!」とあり、楽しいための療育介護を実践する取組等、重症児者病棟の療養介護事業へ移行されての運営の多様な課題に対しての院長先生の思いに参加者の高い評価を頂きました。

分科会では3年間のコロナ禍における、親の想い及び地域での生活への想いとし、率直に意見交換を行い、活発な分科会が行われました。今回の東北ブロック大会を開催するために、昨年度にブロック大会実行委員会を立ち上げ、実行委員、支部役員、会員の皆様が準備段階から様々な課題を実行委員会等で検討し、課題解消等に努め開催にこぎ着けたご労苦に対し心より感謝申し上げます。

さて、来年度は岩手県が令和6年度を始期とする岩手県障がい者プラン（岩手県障がい者計画）を策定するため素案への意見募集を1月中旬に地域説明会を行い県内各地域から県民のご意見を募集する予定です。この障がい者プランは我々守る会の今後の活動にも大いに関連があります。今後パブリックコメントを行う予定です。

守る会岩手県支部としては、これからも会員及び関係機関の皆様からのご理解とご協力を頂きながらそれぞれと一層の連携を図りながら、重症児者等への支援活動を続けてまいります。よろしくご支援等お願い致します。

## 第24回 重症心身障害児(者)を守る東北ブロック 大会研修会・岩手大会 報告

(全て要約して掲載)



テーマ：『想いを声に！！』

東北ブロック大会を振り返って  
実行委員長 遠藤 和彦

去る9月29日、30日の両日に3年ぶりの東北ブロック大会が、花巻市の新鉛温泉結びの宿「愛隣館」で開催され、直接参加・WEB参加による総勢155名を迎えて盛大に取り行われました。参加された方々有難う御座いました。実行委員会を代表してお礼を申し上げます。

今回、東北ブロック大会の開催日程については、9月上旬で設定しておりましたが、全国大会と日程が重なり、9月下旬に日程変更しての開催となりました。また、今大会は、初のハイブリット（WEB配信）を導入し開催致しました。

ハイブリット開催については、在宅の保護者の方々が、東北ブロック大会に参加する事が難しい事からブロック大会がどのような内容で開催されるのかを知って頂く機会として岩手支部が初の試みで実施しましたが、各支部への宣伝不足や多人数が集り、視聴出来る会場確保が出来ないなどの問題もあり、参加者が少なく残念な結果となりました。今後は、この反省を他支部にも展開し継続してもらえるよう推進したいと思います。

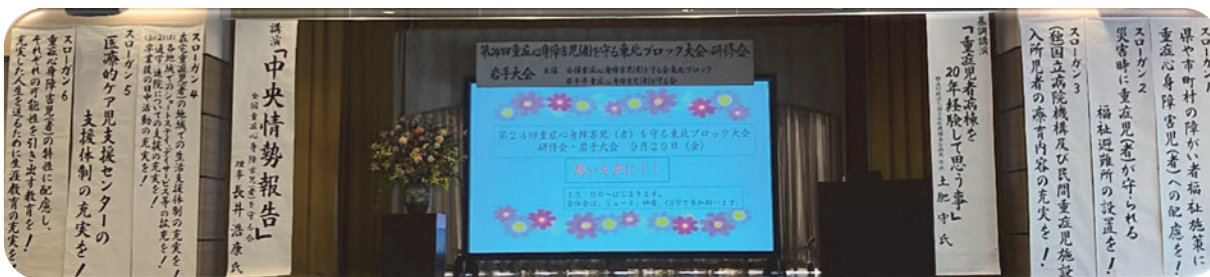
大会を振り返って初日の式典～懇親会については、予定の時間を超過するなど懇親会が30分遅れの開始となり、参加された方々大変ご迷惑をお掛けしました。アンケートの回答でも「時間配分をしっかりと行った方が良い。」などのご意見を多く頂きました。事前に時間配分についての打合せを行っていなかった事を反省しております。

二日目の分科会については、過去の大会を見ても珍しく、会場確保の関係で二日目の実施となりました。第一分科会「面会・療育・将来等」と第二分科会「福祉・教育・医療等」と2つのテーマで行い、各会場では3年ぶりに「想いを声に！！」して活発に意見交換が行われました。

一方で、予測の甘さから想定外の事象が発生しました。第一分科会の会場収容人数の関係で希望する分科会に参加出来ない事から岩手支部内で人員調整をさせて頂きました。参加された各施設の会員の方々、大変申し訳ございませんでした。

最後になりますが、東北ブロック大会に向けた企画・準備段階と大会当日の問題点を整理し次回開催への参考資料として永久保存版にして引き継ぎをしたいと思えます。

大会に参加された岩手支部の皆さんへ色々不手際がありました。3年ぶりのブロック大会参加有り難うございました。



来賓のみなさま



ありがとうございました!!

## 大会を振り返って

日 時：令和5年9月29日（金） 13：00～ 30日（土） ～12：00

場 所：新鉛温泉 結びの宿「愛隣館」

出席者：会場・Web参加総勢155名

# 第24回重症心身障害児(者)を守る東北ブロック大会・研修会

**岩手大会** 主催：全国重症心身障害児(者)を守る会東北ブロック  
岩手県重症心身障害児(者)を守る会

### 【1日目—9月29日（金）】

#### 1 開会式式典

岩手支部の伊藤理事の司会により、会は静かにスタートしました。

「物故者への黙祷」山形県支部長の薄衣氏の「開会の言葉」

福島県支部長の牧野氏の「三原則の唱和」に続き、東北ブロック長、谷川氏の「主催者挨拶」がなされ、「歓迎の挨拶」を岩手県支部長代理の遠藤がしました。

お二人ともコロナで3年間ブロック大会がやむなく中止になった事、また再び皆様と直接お会いして大会をすることができるようになった喜び等を述べました。



ご来賓祝辞では、野原 勝 岩手県保健福祉部長 様（岩手県知事 達増拓也様 代理）から、「岩手県県民計画により、障がいのある方々が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、社会参加の促進に取り組んでいる、また、医ケア児支援法の施行で医ケア児支援センターを設置し、支援体制の構築に取り組んでいる等」とのお話がありました。

花巻市長 上田東一 様からは、「障がいのある人もない人も地域の中で生きがいを持って生活を送ることができる共生社会の実現に向けて、障がい福祉の充実やノーマライゼーションの推進に積極的に取り組んでいる、また、医ケア児とその家族への支援の充実を図っている等」ご挨拶をいただきました。



#### <ご出席の来賓の方々>

野原 勝 様	岩手県保健福祉部長（岩手県知事 達増拓也様 代理）
上田 東一 様	花巻市長
日向 秀樹 様	岩手県保健福祉部 障がい保健福祉課総括課長
最上 一郎 様	岩手県教育委員会事務局学校教育課特別支援教育課長
今井 岳彦 様	花巻市健康福祉部長
高橋 進 様	岩手県社会福祉協議会 専務理事（会長 長山洋様 代理）
高橋 照幸 様	花巻市社会福祉協議会 会長
土肥 守 様	（独）国立病院機構 釜石病院 院長
小山 耕太郎様	みちのく療育園メディカルセンター 施設長
伊東 宗行 様	みちのく療育園メディカルセンター名誉園長
長井 浩康 様	全国重症心身障害児(者)を守る会理事

意見発表1 「娘の笑顔に励まされ」 岩手県支部 侘美 陽子 様



娘の舞は、平成3年9月28日に生まれ異常が見つからず退院したが、1か月後「點頭てんかん」との診断を受けた。その後、都南の園盛岡養護学校を経て、現在は、グループホームに入居している。

ここまでは、色々なことがあったが、これまで多くの方々に支えられてきた。また「娘の笑顔」にも励まされ、力をもらっている。

今後は、平成21年に作った「オレンジの会」の活動を通して、できることをさらに行い、多くの方々とつながっていききたい。

意見発表2 「居場所」

宮城県支部 小幡 けい子 様



昭和52年6月、3640gで息子は生まれましたが、離乳を始めれば下痢と便秘を繰り返す、アトピーは出る、そして「小児喘息性気管支炎」、その後「百日咳急性脳症」で後遺症が出現。宮城県立盲学校の訪問教育を受け、17歳で卒業。出来上がったばかりの仙台エコー医療療育センターに入所でき、将来への不安が少し解消された。息子が障害を持ったことで、たくさんの仲間ができた。息子と私は「居場所」を見つけた。グレー一色だった人生に色がついた。手を差し伸べて下さった多くの方に感謝の気持ちで一杯。

基調講演 (独)国立病院機構 釜石病院院長・主治医 土肥 守 様

「重症児者病棟を20年経験して思うこと」



(108ページに及ぶ膨大な資料を提供していただきました。  
ほんの一部の紹介です)

(パワーポイントタイトルのみ一部)



<p>1. 重症児者病棟でのいやしとは</p> <p>2. この20年でおきたこと</p> <p>3. 脳に重い障がいがあっても人生は楽しめる</p> <p>4. そうしたことなので国立釜石病院の療育の大方針は、<b>楽しいか!</b>です</p>	<p>5. 最低限必要なのは</p> <p>6. 楽しいための療育</p> <p>7. 療養介護になって進歩した事</p> <p>8. 療養の質の向上のための取り組み</p>
<p>9. 支援会議の基本</p> <p>11. 支援会議でのポイント</p> <p>12. 看護の取り組みの変化</p> <p>13. 強みを活かした積極的な看護計画</p>	<p>14. 釜石スケールを作成・活用してます</p> <p>15. 喫食時間を変更して保育時間を増やしました</p> <p>16. 保育時間増加すると</p> <p>17. わんだふるとは? すてき! 不思議! 素晴らしい! 大好き!</p>

(略)

101. 重症児者医療の継続について	105. 経済成長の鈍化と社会保障の高騰
102. 病棟の建て替え	106. 孤高全体は黒字だが医療収支は赤字 入院/外来患者数も減少している
103. これまでの収支の状況	107. 医療の事情一世の中は進歩し続ける
104. 新病棟にすれば感染対策は万全に	
108. さいごに ・重症児病棟の運営と診療経験を約20年間経験させて頂き、これまでの経験などからお話をさせて頂きました。 ・当院のシャクナゲ愛育園親の会の皆様を始めとして多くの方々の助けがあり、何とかここまでくることができました。 ・入所されておられる方々の人生はまだまだ続きますので引き続き、ご鞭撻。ご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。	

### 【感想（アンケートより）】

- ・基調講演の途中もう少し休憩があれば良かった。
- ・基調講演の内容に感動した。是非、地元でも講演して。全国にも発信してほしい。
- ・土肥先生の話は興味を持ち、楽しくなかなか面白く、分かりやすかった。素晴らしいの一言。
- ・院長先生の利用者に対する考え方素晴らしいと思った。
- ・子どもたちを導いている姿に感激。
- ・入所施設「楽しいか」が最高。子供たちの充実した笑顔、素晴らしかった。心、豊かで楽しいを感じた。
- ・当病院の院長も参加して欲しかった。・話が速く、よく理解できなかった。ゆっくりはっきり話してほしかった。
- ・施設側の運営の難しさも現実です（人員確保、経営）釜石病院の楽しいかポイント。印象的。一般の社会・会社にも使えるキーワードかと。

中央情勢報告 令和5年度全国重症心身障害福祉施設協議会 特別講演より（DVD視聴希望の方は、事務局まで連絡を下さい）

「児者一貫制度の過去・現在・未来」

社会福祉法人全国重症心身障害児(者)を守る会 常務理事

国立秩父学園親の会元会長

茶園 光彦 様

代理 社会福祉法人全国重症心身障害児(者)を守る会 理事 長井 浩康

（45ページに及ぶ資料を提供していただきました。ほんの一部の紹介です。）

配布資料（両親の集い印刷）

1. 2022年7・8月号  
「児者一貫「制度」の法的担保について」
2. 2004年4月号  
「脱施設」では現実的な議論を
3. 2010年11月号  
「地域」と「自己決定」



3. 運動体と事業体の違い	7. (児者一貫制度の過去・現在・未来
4. (児者一貫制度に関する法体系の混乱)	(A) 過去 (不思議な法体制下での運動の限界)
(1) 児童福祉法 (昭和22年制定)	8. (B) 現在 (障害者総合支援法制度化での児者一貫制度の保持)
5. 児童福祉法の弥縫 (びぼう)	13. (C) 未来 (児者一貫制度と脱施設・地域移行の問題点)
6. 子ども家庭庁の創設	

(略)

### 34. 議論のポイント

- (1) 重症心身障害児者を受け入れるグループホームが、あたかも多数成功実績があり、一般化されるのが当たり前といった印象操作が行われているが正しい情報か？
- (2) 知的障害者グループホームの介護従事者が、充分確保されているのか？
- (3) 知的障害者を診る医師や看護師等の医療従事者や介護従事者が不足している現状を鑑みて、施設以外で在宅を支える医療従事者等を十分得ることが可能か？
- (4) 重症心身障害者施設退所を余儀なくし、脱施設を唱えかつ受皿背尾美を迫るのは暴挙ではないか？
- (5) 親が施設に入れないように頑張っているから、施設が定員割れを起こしているから今後、施設は不要となるという誤った風潮をどう正していくのか？
- (6) こども」施策が注目される中、重症心身障害児者は置き去りにされるのではないか？

### 35. (おわりに)

- ・本講演は、地域移行にはんたいするものではありません。 ・露総論ではなく、現実論として。
- ・重症心身障害児者や重度知的障害児者のための「終の棲家」としての入所施設は必要である。
- ・安易に脱施設、地域移行論を流布しないでほしい。

### 【感想 (アンケートより)】

- ・地域以降の件は難しい内容でしたが安易な考えは自分たちも困ることだという守るきもちからの強いメッセージかと思った。
- ・内容一個人的想いが強すぎるように思った。
- ・基調講演と中央情勢報告、2つは多い。時間がかかり過ぎ。(終盤) が長くなった事で、周りも飽きているように見えた。
- ・中央情勢報告について、想像していたような内容ではなく、とても驚いた。入所施設から地域移動への動きに問題があるということでの、この内容ということもわかるが、グループホームなどで暮らす場の形は嬉しいもののはず。なぜ問題になっているか、これからどうしていったら実現していくのか、もっと前向きにとらえ取り組むことはできないのか、とても違和感を感じた。
- ・中央情勢報告が良かったです。入所施設は親なきあとには絶対必要であると思う。守る会の活動の重要性を改めて確認した。
- ・資料を改めて読み、脱施設の注意点もわかりやすかった。
- ・基調講演、中央情勢報告共に内容が非常に詳細なものであり、私はとても参考になった。
- ・とても内容 (中央情勢報告のビデオ) は良かったがマイク、音量の関係か話が聞きづらかった。(10) ・パワーポイントを使って説明していたが、小さくてよく見えなかった。

**【2日目—9月30日（土）】****第1分科会 テーマ「コロナ禍における親の想い」（面会、療育、将来等）**

司会 和泉勝彦 後藤二三男

助言者 伊東宗行氏（社会福祉法人新生会みちのく療育園メディカルセンター 名誉園長）

箱石 悟氏（（独）国立病院機構岩手病院 療育指導室長）

山崎宣之氏（（独）国立病院機構釜石病院 療育指導室長）

司会：コロナ禍の現状を助言者の方に聞きたい。

**◆助言者 伊東宗行氏**

コロナは、一言で言えば感染力が強い。しかも罹患すると10～14日間ウィルスを排出するという結構厄介な病気。もう一つ厄介なことは症状が出ない方が結構いる事。コロナとの戦いは、どうやって罹らないようにするか、罹ったらどうやって広めないようにするか、後はできるだけ速やかに治療する。その三段階をやらないといけない。そこでコミュニケーションが大事で、施設と利用者のみなさん以下ご家族もそう。色々な意味でなんとかしてコロナとお付き合いをしないといけない。ウィズコロナという言葉がある。この先、10年間続くのでは。特に、今年は流行の兆しが現れており、都会の方で結構多く出ている。コロナとインフルエンザと共にこの冬は流行する、相変わらず感染対策はしっかりしないとならないと思う。

**◆助言者 山崎宣之氏**

北海道東北ブロックの療育専門職からベースのお話。管内の16施設の、コロナが5類に移行したあとの感染状況を整理してきたので、全体の状況として、面会、行事、ワクチンについて管内の状況状況を説明したい。

釜石でも2回クラスターが出た。コロナが5類に移行したあとの感染状況の報告をする。5類になって面会、面会状況は、16施設全てで対面面会、制限付きのところもあるが、15分から20分ところによっては30分、時間が適切かどうかは置いて、時間を区切って実施している。その他リモート面会も、対面に先立って行っていた。対面面会は、感染が広がればまた止める事もあるかも知れないが、全施設で行われている。

行事では家族参加、これはまだ進んでいる施設が殆どなくて、北海道の施設を除けば、秋田と花巻で制限付きだが、家族参加の行事を始めている。花巻はほぼ制限なしで行事に参加している、秋田では誕生会で、誕生月の方の親御さんに限定して入って頂いている。それ以外の施設は行事の時の家族参加には踏み込めていない状況。ドライブという形で院外活動を行っている施設は、だいたい7割から8割に戻ってきている。人が集まる人流が関係する目的地は避けて、車での活動。

ワクチン接種。殆どのところが継続して実施している。5類に移行したことで、インフルエンザと同様に接種に関しても自己負担になってくるので、ご家族の同意を得て進めていく方向で検討中の施設が何箇所かある。一応調べたところです。

**◆助言者 箱石 悟氏**

あすなる病棟150床。奇跡的というかコロナに罹患された利用者の罹患者はゼロで来ている。職員は、とにかく院内に持ち込まないというのをやっている。面会は、当院では当初はオンライン面会。現在は、院長の意向でスキンシップを含めて、手とか顔とかを触るということもOKとしている。前までは一日4組、10分間の予約制でやっていた。先月からご家族に会わせたい、との意向があり、4回から6回に増やしている。これが第一段階。あとは社会の情勢を見ながら、第二段階として、行事の参加、追々は病棟に入っている面会もしていきたいと思っている。まだそこまで至ってはいない。とりあえずは来院し対面で、スキンシップをとって頂く面会をやっている。面会を増やしたら、予約の数も増えきた。今まで中々来られなかったご家族からの予約も入ってきている。可能であれば、午後もやっていきたい。今のところは、時間の余裕がある午後2時から4時、という事でやっている状況。

**◆助言者 山崎宣之氏**

一つの方法として他ではこうやっている、というのはいいと思う。重症児者医療にどれだけ重きをおくかというの、各病院毎に温度差があることを感じている。こちらからもお願いしたい。

他の施設でやっている状況を家族会で共有して、それぞれの施設に投げかけて頂いた国療グループ内で、コロナ前には年2回、必ず各施設で病棟運営懇談会を実施することと、業務連絡として全施設に入れてある。約束した覚えがないという施設があれば、私の方に言ってください。それは公文書で出していることなので。コロナ禍で、集合型での開催は難しいとか、ここ3、4年は仕方なかったと思う。コロナが5類になって運営懇談会はどうなったかと、という調査を各施設に入れようと思っている。なかなか療育指導室長を配置できていない施設もある。16施設中8施設に配置されているが、今年度室長が1人定年退職されるので、半分以上になる。室長がいなくなる。病院との橋渡しがうまくいかなかった、とのご意見も頂いている。ですが私の方から、たとえ室長がいなくても児童指導員が病院との架け橋になるように。また残念ながら、主任指導員も置けていない施設もある。主任保育士さんを職場長にしていたりとか、一般の児童指導員が職場長代行をしなければいけないとか、組織の脆弱な療育事情になっているが、家族会との橋渡しは指導室が業務としてやるものだと、管内には伝えている。

そこがうまく機能していなければ家族会の方から、(療育指導室の仕事をしると) 言って頂いて構わない。施設長の方とコミュニケーションを図って頂くのもいいかと思う。

**●宮城会員**

宮城は、良いところもあれば残念ながらそうでないところもある。

マイナス面もあるが、面会時間は30分、支援計画書を書いている担当さんと話し合える時間も持てるよう家族会からお願いし、やってもらっている。

**◆助言者 伊藤宗行氏**

規模が大きいということが、ある程度は職員、親の会、利用者の状況によってある程度動かせる。そこで大事なことは、親の会のみなさんからどんどん言って頂く、注文をつけて頂く、それが施設をよくする、利用者の方々の幸せにつながる大事な要件だと思う。今日お集まりの皆さん、是非、心を大きくして、声を大にして、施設側に希望を述べて頂きたい。それを糧にして、私どもはさらに少しずつ良くなっていく。それが入所している方々に幸せが還元されていくわけですので、皆さんの活発なご意見を、今日はその目的もある。

**●宮城会員**

1泊旅行に、4年間一回も外出も外泊も許可がなかったので、喜んで私も主人も申し込みをしたが。コロナが出て、今年も中止となった。ドライブで主人と出かけたいが、院長と3人の先生と話してもまだ許可がない。主人も80歳を超えましたので、この4年間とても虚しい、外出とか外泊をできないので、どのように院長さんを動かしたらいいかと、条件付きでいいから許可をして頂きたい、けどダメなんです。動ける子。なので、コロナだからと、じっとしているのはダメなんです。で、先生も、とにかく親の会で動いてというが、積極的に動く親の方が少ない。

どのような形を取ったら、外出と外泊をできるようになるのか、先ほどからのお話ではコロナは無くないんですよね。主人は、このままでは俺は死んでも死に切れない、といている。ぜひ助言をお願いしたい。

**◆助言者 伊藤宗行氏**

流行状況によって、緩めたり厳しくしたりということは各施設においてされて、それをしっかりやらないうとクラスターの二の舞を招く。そこら辺はしっかりやっていかないといけない。でも大事なことは、お子さまとご家族の気持ちをどうやって達成するか、応えていけるかは、各施設、心を砕いていることですので、ご理解頂ければありがたい。

**◆助言者 箱石 悟氏**

岩手病院は、外出、外泊はまだない。ただ、他科受診、東北大病院とかの病院を受診する場合には遠い



ので、自宅に前泊して翌日大学病院受診の後、後泊で自宅に戻って、その後岩手病院に行く、という計画をした。どうにか主治医に認めてもらって、もちろん戻ってきた時には、3日間なり個室に入って頂いて様子を見た、という事例があった。

うちの院長先生は、ご家族さん優先に考えますので、面会も増やそう、という思いはあるが、あくまで施設長さんは、クラスターとか罹患させるのが怖いとか、命を第一で考えているので、かといってお父さんお母さんの気持ちもわかりますし、それで施設長さんも板挟みの心情になっていると思う。それでも心情に訴えるのも、一つの手なのかなと思っている。アドバイスにならないかもしれないが、そんな感じだ。

- 司会：指導室に話す、施設長に手紙を書く、という方法もいいようだ。是非、やってみてください。

- 宮城会員

今年はリモート（面会）が5月連休くらいまでであった。5月の中旬から面会機会が火、金で2回14時から15時まで、15分単位なので4組×2ということで、8組。7月の下旬から月2回。火、金同じようになった。

会員が、高齢になっている。この中でどうやって新しい役員を、役員になれるような方と接点を持ってやっていくか、それが悩みの種。

- 福島会員

福島県は、県全体が、他の所はどうなっているんだ？と意外と日和見的。

面会の関係をお聞きしたい。うちは月1回、10月から30分になるが、月2回やっている所はどのくらいあるか、データとして持っているか？

- ◆助言者 山崎宣之氏

釜石病院は、回数に制限を設けずに、空いていれば何回でも面会して頂いている。

グループにいて私がこう言われたって言うてもあまり響かないんですけど、家族会から言われたとか、国立施設部会からこう言われたとなると、動くので皆さんが口を開いていただくと、そこで初めて、専門職どうなのって聞かれる。こんなこと言ったら病院に迷惑かな、なんてことはあまり思わずに、声をあげていただくと、少しずつ広がっていくかなというのは感じている。

- 山形会員

機構として面会できない病院がまだある、その把握はしているのか。山形の現状だが、高齢化で、施設に預けておられる親御さんで、亡くなられる方が出て来て、知らないケースも結構ある。会員も、減る方向。入会を促すと、役員になりたくない、という方もいる。いこいの家が昨年から使えなくなっている。耐震基準を満たさないから。建て替えにも4、5千万円かかるということで一切動きがない。

我々の活動する場所が狭められてきて、近くのコミュニティセンターを無料で借りて活動している。親御さんとのコミュニケーションが取れない、顔もわからないという状況になって来ている。病院の行事に合わせた年5回の茶話会で集まっている。その中で一番話題になるのは、やはり役員になる人がいない、替わる方がいないという大変な状況になっている。皆さんも情報を知りたいというのは一緒だと思うので、地道に活動していきたいと思う。

- ◆助言者 山崎宣之氏

米沢病院からは、制限ありだけど対面面会しているという返事が来ている。窓越ししかやってないし、あとはオンライン面会。対面面会を実施していると理解しておりましたので、今度米沢病院に確認してみる。

重症児病棟は、医療機関であると同時に、障害福祉サービス事業所なんだという意識を強く持って頂いて、その対応をしっかりと頂くということは、今後も療育部門の方にも強く言わせていただきたいと思います。各所属の施設においても、どうしてもそこまで口を開けないようなところであれば、私の方から助言をさせていただく、行き届かない療育指導室があったら、ぜひ私の方にお声がけ下さい。施

設部会長〇〇〇〇と書かれた書面の方が効き目が充分にある。家族会と連携していきたい。

◆助言者 箱石 悟氏

若い人たちは、親の会のような組織に入るのが好きじゃないようだが、声かけは大事。

●宮城会員

私の息子がコロナに罹った。本人は、大変苦しんだらしい。大変な時、助けてくれた遺漏の手術をして頂いた先生に、お礼の手紙を渡したい、という話になり、とうとうその手紙をだしたようだ。そういう話を聞いて、エコーに対して色々たくさん問題はあっても知れないけれど、保護者会で、遺漏になった方、コロナになった方の家族さんに対しては毎日連絡してください、と会長さんがエコーに連絡して下さったことと、そして、子どもの心をここまで受け取って頂いたことに、物凄く感動した。それを伝えなかった。

どんなに障害が重くとも、目と目で、そして頭と首を使って、子どもは心に、たくさんいろんなものを持っているというのが、私、80歳過ぎて初めて分った。

●青森会員

八戸病院の、親の会ファミリーの会が今年でなくなった。親の会の存在を失って初めて、親の会の大きな存在を感じている。解散の理由は、新役員さんのなりてがなかったこと。

子どものことを手紙を書いて、職員の方に託して願いを叶えるという手段をお勧めしたい。入所後、座位を取らせてもらえるようになった。手紙を書くことをお勧めしたい。

●司会：我々の思いを院長宛に指導室経由で伝えましょう。また、一般病棟との整合性という話が出た場合は、介護給付費出ているでしょうと、重心病棟は別棟でいいんだ、と。ということは、特に国立施設部会の方は、頭の片隅に置いておいた方がいいかと思う。

●青森会員

青森病院では、面会は毎日でも30分OK。面会が終わった後に私物庫の整理もできるようになった。病棟運営懇談会、年1回行っている。今後は、年2回、改正してもらいたい。親の活動では、毎年忘年会をやっていたが、今の時期に合わないという判断で、来月施設内の憩いの家で、茶話会を、弁当を食べて皆さんと愚痴を言い合おうという感じで、ざっくばらんにやろうと計画している。あと、総会は病院の会議室を借りることはできたが、日程の関係で隣の憩いの家で開催することができている。

●岩手会員

岩手病院にいた時に歯が綺麗すぎて光り輝く歯をしていたんですね。それが自慢だったんです。ところが現在、盛岡病院にきて、とても見せられない歯。個人的に歯科医に行って診てもらおう方もいるが、外に連れて行ける状態の子ではないので、ホントにいつ磨いたんだろうってくらい、悪い言葉で、歯くそが溜まっている状態。とても他の入院している子と比べられないくらい。歯をなんとかしてほしい。盛岡病院に歯科衛生士もいるらしいが、なんとかしてほしい。

◆助言者 山崎宣之氏

手紙もいいかもしれませんが、個別支援計画を必ず作成しているので、そこに家族の思いをしっかりと個別支援計画に反映させる、家族の要望している欄に記入してもらうことが大事。記入してありますか。(岩手会員：あります。)では、そこがしっかりされていないので納得ができないということ、しっかり強調してもらっていいと思う。やっぱり歯科を持っている施設は歯の状態はいい。盛岡医療センターの主任指導員に、この個別支援計画書に書いてあるのにやられていないんですけど、と申し出てみてください。それでも響かなかったら、私の方に連絡ください。

◆助言者 伊藤宗行氏

今の歯科の話はすごく大事。歯科医がいなくても、歯科衛生士さんがおられしっかりと指導する。口腔衛生は生活支援員さんや看護師さんがやっている。それを指導する歯科衛生士さんが居ればですね、綺麗に歯を磨くことができる。お口の中の健康は、今言われていますよね、ことに高齢者の場合は、認知

症の予防にもなる。生活習慣病の基本になるのはやはり口腔の健康管理。口腔衛生は、今すごく注目されている。特に重症心身障害の方々の場合については、お口の衛生は大事だと思っている。ところで（機構で）歯科衛生士さんのいない施設もあるんですか。（山崎：ないところの方が多いです。）それは良くないですね。やっぱりこれこそお手紙を書いて、歯科衛生士さんを採用していただければいいんじゃないですか。釜石はおられますよね。（山崎：はい）全然違いますよ。色んな意味で、お口の衛生をしっかりやれば、いい健康管理になる。大事なことだと思いますので、ぜひ一筆お書きになったらどうでしょうか。以上です。

- 司会：具体的な方策が出てよかった。これがうまく行ったら、後でまた報告してください。いろいろなご意見をありがとうございました。時間も過ぎましたので、この会は、ここで閉じたいと思います。改めて、助言者の先生方に御礼の拍手をお送りください。

## 【第2分科会 テーマ「コロナ禍における地域での生活への想い」】

司会 藤村ゆみ子 石川麗子

助言者 近藤健一氏（岩手県立盛岡視覚支援学校 校長）

猿舘 寛氏（社会福祉法人盛岡市社会福祉事業団 もりおか障害者自立支援プラザ  
所長兼相談支援専門員 盛岡市医療的ケア児等コーディネーター）

大力聡美氏（社会福祉法人新生会みちのく療育園メディカルセンター  
岩手県医療的ケア児支援センター 医療的ケア児等コーディネーター）

参加者：会場64名、WEB14名 計78名

### 1. コロナ禍の在宅生活で思ったこと、思っていること

#### ●岩手会員

デイの利用を2箇所以上併用している場合どちらかにしてほしいと言われた。感染者と接触があった場合、学校を休んでほしいと言われ、デイも利用できず共働きのため困った。休業助成金がR5.3.31まではあったが現在は無い。

#### ●青森会員

R5. 8月に家族3人感染。ヘルパーが利用できず、子供の介護と食料調達が大変だった。守る会の友人に助けられた。

#### ●岩手事業所職員（子供が重心）

子供の付き添い入院の際、出入りが制限されていたため、食料の調達やおむつの購入に困った。

#### ●岩手会員

急ぎではない通院の頻度、リハビリをどうするかで悩み、リハに3年通っていない。成長期なので受診したいが、近くに病院がなく、どこへいけばいいかわからない。

#### ●宮城会員

NPOの事業所をやっている。利用者が家族感染し、2W経っても陽性だったため長期間受け入れできなかった。病児保育のようなものがあればよいのでは。

#### ●青森会員

流行時期は自粛し通所を休んでいた。リハで通っていた病院が外来を閉じたため2年ほど受診できなかった。幼児期の大切なときに確保できず申し訳ない気持ちでいる。

#### ●岩手会員

両親が感染、子の感染は免れたが自分が倒れたらこの世話はどうするのか、接触者を受け入れてくれるのか、色々な不安や想像をした。流行が落ち着いているときに親無しで入院できるように準備したいと思っている。コロナは災害と同じで遠くの事業所には頼めない、自分だけでは乗り切れない、何かない

のか。

●青森会員

親が感染しても子供のケアをしなければならないため、移してしまう恐怖があった。避難場所がほしい。

●青森一般（教員）

学校の濃厚接触の捉え方が広く、また閉鎖の範囲も広がった。致し方ないとはいえ守る場所になれていたのかと感じている。振り返りは必要。

●岩手会員

訪問看護も最初の頃は接触者となった場合は利用できなかった。（職員の人数などにもより事業所により対応が違う）家族の感染で、ヘルパーなどを全て断りワンオペで乗り切った。感染していなくても学校を欠席せざるをえなかった→仕事を休まなければならないので有休では足りず生活に直結する。

◆助言者 近藤氏（教育）

生徒を守り集団感染させないのが前提だが、この先もコロナに付き合っていくといけないう。安心安全のために必要な対応だったが、本当に必要だったか？福祉との連携、保護者との連携はどうだったか？学校のとるべき対応を考えなければいけない。

◆助言者 大木相談員（医ケア児センター）

病院への通院について問い合わせが多かった。リハビリの確保が難しく病院変更をした事例があった。リハは子供にとってはもちろん、大人も機能維持に必要なため気兼ねなく医ケア児センターに相談してほしい。東北全県に設置されている。→各県の医療的ケア児等支援センターの状況

●青森会員より

県立病院に開設されている。医ケア児のネットワーク（けっぱれ医ケアっ子）で八戸、青森、弘前のメンバーが交流。交流会も行っている。

●宮城会員より

開設されているが石巻在住のため遠方で敷居が高い。

◆助言者 大木相談員（医ケア児センター）

岩手では医ケアに関わらず相談を受けている。広範囲のため、現地に出向き対面で話すよう心がけている。全国的な組織もあり、その中に医ケア部会がある。どの県も職員は3～4名で試行錯誤している様子。きめこまかな対応はこれからの課題。

●岩手会員

親の高齢化（80歳）で在宅でみる限界がきている。薬の処方近くを病院に変更してもらった。コロナでは通所先が職員不足で休みになったことがあった。施設の運営、職員の給与など心配になった。父が感染したが別居の娘が泊まり込みで助けてくれ乗り切った。

●岩手会員

ショートステイが使えなくなり、デイも閉鎖の時期があった。ショートステイは再開する心の準備ができず、利用できていない。朝送迎が来る時間に急にデイの閉鎖の連絡があり、自分の職場を急に休みにくく、夫婦交代で仕事を休みながら2週間乗りこえた。在宅リハは防護服を着て訪問していた。

●岩手会員

通所は収束するまで休みにしていた。ショートステイは検査キットで陰性なら利用できた。他に感染を広げるのが怖かった。

◆助言者 猿舘さん

在宅の相談を受けているが、施設の中の様子が見えないことの不安は通所でも同じで、日々心を砕いて対応していた。元々1か所の事業所利用の人にはリスク分散のために2か所に増やすことを進めた事例があった。学校と福祉の連携が大切で、学校の感染状況を放課後デイの事業所に伝えるようお願いして対応してもらったことがあった。これからもコロナと付き合っていくことを考えなければならない。感染したときに病院が受けてくれるかなど。

## 2. コロナ禍での施設面会状況など

### ●岩手会員

面会も出入りもできないが、外部との接触がないため感染から守られている。コロナ禍でも安心して子供をお願いできていた。他の親や子供とのコミュニケーションがとれないのは残念だが、施設にはとても感謝している。リモート面会はありがたいが、肌の触れ合いができないのが残念。

感染が落ち着いている時期は個室での面会ができています。今後は外の散歩も自由にできたらと願う。療育の面も考えてほしい。

### ●宮城会員

8月からリモート面会→直接面会できるようになった。15分はあっという間でもう少し長くなればと思う。

### ●宮城会員

現在は予約すれば個室で面会可能。これまでは親がタンス整理など出来ていたのができなくなったままでどうなっているのかと思う。

### ●岩手会員

早い時期からリモート面会は可能で、直接面会は感染状況をみて実施されている。コロナ前は月2、3回は自宅へ外泊していたが、長期会えないことで自分を親として認識するのが難しくなっており、切ない想いでいる。施設は命を守る場所と重々理解しているが、この数年は取り返しがつかない。あきらめの心境。施設の方は日々必死にやってくれているが、一泊でもさせる方策はないか、何が何でも会いたい、抱きしめたい。自分があと何年生きられるかということも考えてしまう。

施設の方は一生懸命にやっているに違いないが、親にはその内容が伝わらない。情報量が少ない。「おかわりない」だけではなく、どんな様子か伝えてほしい。

### ●岩手会員

施設には大変お世話になっているが、前の方と同意見である。5類になっているいろいろなことがクリアになっていけば良いと願う。ガラス越しの面会が続いて親を認識しているか分からず寂しく思う。一泊でいいので外泊させたい。

### ◆助言者 大力相談員（医ケア児センター）

施設、在宅それぞれの心情がある。職員も感染させないための行動をしている。これまでの話を聞いて双方のコミュニケーションが必要と感じた。施設からささいなことを伝える努力が必要で、親の思いを職員に伝えることも大切。どんな風にすれば親が安心するか施設に持ち帰って相談したい。

**司会：震災後、緊急時への備えが落ち着いた感じがあったがコロナ禍でまた必要性を再認識している。親がつながって声を出していくべき。今作らないとまた災害が起きた時に困るのではないか。**

### ◆近藤さん

学校職員の立場として。当時は学校も混乱し、その時々への対応に追われていた。今それを乗り越え、総括する時。家族や保護者の不安に寄り添っていたか、と。今後また大変なことがあるかもしれない。適切な情報発信をする必要性を感じる。

### ◆猿舘さん

盛岡市は相談員不足でセルフプランが今でも多い。今安定していても、3年先、5年先を考えて動かなくてはならない。先を予測しての行動が当事者家族も必要。

### ◆大力さん

一施設職員として安心して保護者が預けられるように努力したい。ショートステイについては、様々な意見が寄せられている。ショートを再開するにあたり職員の質も落ちている可能性があるため、研修等で人材の育成をし、受け入れ態勢を整えていかなければと感じている。支援センターは皆の声を聴く機関なので声を寄せてほしい。

## 【感想—アンケートより】

- ・分科会2に参加したが、本来は第1を希望していたので、施設入所させていただいてる身にしてはとても残念だった。・出来れば希望の分科会に行きたかった。(9)
- ・希望した分科会に参加できなかった。人数調整のためとはいえ、せめてその施設の半分でも分科会に参加できるようにして欲しかった。
- ・分科会は希望しない所に一言もなく入れられた。廊下でもよいので希望する分科会に参加したかった。参加しないで帰ればよかったかな、せっかくの参加なのに。
- ・分科会ではテーブルがあればよかった。
- ・聞きたい分科会に参加できず残念でした。
- ・分科会選択がなく第一分科会へ参加したかった。貴重な時間を使って出席している。分科会調整はありえない！会場選択がそもそも問題だと思う。
- ・希望しない第2分科会出席で不満だった。
- ・分科会に於いて体験の難しい問題が色々とお出されて勉強になった。施設側との密な関係が必要ですね。親が高齢になり次の世代にどう結びつけていくか心配になる。
- ・分科会は多くの声を聞くことができた。
- ・発言者の声が聞き取れないところがあり「笑い」がズレてしまった。

## 東北ブロック 岩手大会参加者内訳

	参加総数	大会参加数	分科会参加数		宿泊	WEB参加
			第一分科会	第二分科会 (WEB参加含)		
青森県支部	29	29	10	19	17	12
秋田県支部	10	10	10	0	10	0
岩手県支部	76	72	14	57	54	2
宮城県支部	19	19	18	1	19	0
福島県支部	10	10	10	0	10	0
山形県支部	10	10	10	0	10	0
本部	1	1	0	1	1	0
合計	155	151	72	78	121	14

男性 61名

女性 94名

本人参加	9名
親	121名
兄弟姉妹	4名
施設職員	5名
その他	16名

※平均年齢68歳

# 懇親会



## 北上谷地鬼剣舞保存会



土肥先生に盛り上げていただきました!!



## 分科会WEB参加者



## 分科会報告



次回は、宮城で逢いましょう!!



小山先生、生花ありがとうございました

## 東北ブロック大会アンケート結果 84回答（うちWEB回答4）

### ●性別をお答えください（回答数74）

男性（24） 女性（50）

### ●年代をお答えください（回答数83）

40代（4） 50代（8） 60代（28） 70代（31） 80代（12）

### ●お子さんの年齢（回答数67）

14歳～76歳

### ●お子さんは（回答数69）

在宅（8） 入所（60） 一般（1）

### ●開催時期について（回答数78）

適当（64） 遅すぎる（11） その他（3）

### ●開催時期について

- ・開催時期は他のとかわらないように。
- ・大会が例年の如く9月早々に行えば参加者が多いのでは？ 農家の方が稲刈り等で参加できなくて残念との声がある。
- ・開催時期についてはやむを得なかった。
- ・開催時期が月末だと困る方も。金・土はいいかも。

### ●大会の運営について

#### (1) 基調講演について（回答数82）

良かった（63） 普通（11） 良くなかった（1） その他（7）

#### (2) 分科会について（回答数73）

良かった（47） 普通（20） 良くなかった（2） その他（4）

#### (3) 懇親会について（回答数75）

良かった（51） 普通（20） 良くなかった（1） その他（3）

### ●懇親会について

- ・懇親会は遅れた分、味がイマイチ。
- ・懇親会は時間の調整が悪かった。
- ・懇親会は配分が良くないです。7：30からは今までではありません。
- ・懇親会もう少し早くしてください。18時～
- ・発表時間30分遅くなり宴席30分ずれ、お腹はへるし7時半の食事は遅すぎる。
- ・懇親会は開始時間が遅い。

#### (4) ハイブリッドについて（回答数49）

良かった（36） 普通（9） 良くなかった（3） その他（1）

ハイブリッド（WEB配信）について

#### 5-1) 今後の東北ブロック大会での実施について（回答数62）

実施してほしい（39） どちらでもいい（23）

ハイブリッド（WEB配信）について

#### 5-2) 通信・音声状況について（WEB配信参加書のみ回答お願いします）（回答数29）

映像・音声が良かった（16） 普通（8） 音声が乱れた（3） その他（2）



## ●ハイブリッド開催について

- ・賛助会員。ハイブリッドはもっと活用が進むとよい。
- ・ハイブリッド開催は今まで参加しにくい方も参加できた。
- ・参加できない方にはWEB配信良かった。
- ・参加費が高い。安くする（無料）のために自前で出来なければハイブリッド必要なし。
- ・ハイブリッド、よく分からないが頑張っていますね。

(5) 宿泊施設（愛隣館）について（回答数75）

良かった（48） 普通（16） 良くなかった（2） その他（4） 宿泊無し（5）

## ●宿泊施設について

- ・鬼剣舞がとても良かった。
- ・舞台上の盛花とても素敵です。色合い心が和みます。
- ・食事とても美味しかったです。
- ・食事おいしかったです。良かった。
- ・部屋に居るのに布団を敷きに来てバタバタしてホコリが飛びかっていたのを見ると気分がダウンしてしまった。
- ・家族風呂助かりました！朝食会場も仕切りがあって配慮されています。
- ・館は良いが料理は良くない。
- ・宿泊施設はインターチェンジから遠い。
- ・メジャーな施設で開催して欲しかった。奥深すぎる。
- ・トイレ狭い。水の出悪いです。
- ・場所の案内掲示板みたいなのであれば。
- ・お部屋の水がちょろちょろしか出なかった。温泉が良かったが露天風呂にも入ってみたかった、工事中だった。夕食、朝食とてもおいしかったです。

## ●ねぎらい・感謝など

- ・事務局の皆様御苦勞さまでした。これからも団結、協力お願いします。
- ・役員の方々御苦勞様でした。心から感謝申し上げます。 ・今夏の暑い中御苦勞様でした。
- ・岩手県の皆様お疲れ様でした。来年の宮城県もよろしく願いいたします。
- ・お疲れ様でした。とてもいい大会でした。 ・全体的に良かったです。
- ・岩手県支部の方々に本当にお世話になりました。感謝しています。
- ・大会の開催、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。今を生きる我々にすぐに活かせる情報もあれば良かったです。2日間大変お世話になりました。ありがとうございました。
- ・運営ありがとうございました。
- ・久々の面前対話出来て良かった。参加人数がもう少し欲しかった。
- ・大会運営に関わった皆様、お疲れ様でした。おかげさまで大変楽しく参加できました。ありがとうございました。 ・盛会で実り多い会合でした。多謝。岩手の皆様ありがとうございます。
- ・大変お世話になりました。事務局の皆様に変感謝申し上げます。久々に交流ができて良かったです。様々な声が聞けました。
- ・皆様が意見を出して良かったのではないのでしょうか。
- ・皆さんに会い色々と話（交流）ができ大変良かった。次回も参加できればと思いました。久しぶりの開催、準備等大変だったと思います。皆様お疲れ様でした。2日間勉強になり楽しい大会でした。

## ●ご意見など

- ・今現時点で新しい取り組みをしている施設や活動の話が聞きたかったです。コロナで制限されている生活をどう変えるかの意見を出しあって、実現に向けて建設的な話し合いの場が欲しかったです。
- ・司会の方の進行あまり良くない。気づいたらその都度配りますとか、全体的にマイクの声も聞こえにくい件。時間のかかり過ぎとかもう少し考えた方が良くと思います。スタッフの苦労に感謝致します。
- ・資料の留め方が逆では？読みにくかったです。始まる前に発表者との打ち合わせはした方が良い。
- ・当初の予定時間、守ってもらいたいし（話短めにわかりやすく）。地元、岩手の方の対応が親切で誘導もわかりやすかった。
- ・名前のプレートひもが県別に色分けされていて同県の方とわかり、なんとなく親しみを持てた。
- ・朝食の会場案内、懇親会あたりでアナウンスしていただければよかった。
- ・分科会についても質問に詳しく答えて頂き新しい知識を得ることができました。ありがとうございました。とても良い勉強になるお話をうかがいとても良かったです。どんな時も時間内に話をまとめてください。
- ・冊子の中にメモ用紙が入っていると良い。
- ・袋の中にエンピツでもいれていただきたいです。
- ・時間配分を工夫してください。タイムスケジュール、オーバーしていた。ハイブリッド開催、スケジュールなどもWEBにできるのでは。特に時間配分を考慮して欲しい。長すぎ、タイムオーバーが全てにあった。時間厳守をする研修。(今は研修は時間管理が大切です)事前にルール化し徹底することが重要です。分科会報告は重複していないか、第一→第二、第二→第一に報告すると良い。
- ・1日目の30分以上のオーバーは会場借用の問題もあるので、配慮して欲しかったです。

岩手支部として至らない点が多くありましたことをこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

皆様の丁寧なご感想や貴重なご意見を今後の活動に活かしていきたいと思っております。  
ありがとうございました！！



## 愛の手11



### 『岩手病院に入所して20年！』

菅原 たつ子

三女（<sup>ゆか</sup>裕香）が、岩手病院に入所したのが、平成16年4月27日です。早いもので、もうすぐ20年になります。岩手病院に入所する前は、宮城病院に18年入所していました。

裕香は、生まれつき体が弱く病院に入っていました。「脳性麻痺による両上下肢体幹機能障害」です。

平成29年3月に高等部を卒業しました。

時々、素敵な笑顔を見せます。

これからも、お母さん、お姉さんに素敵な笑顔を見せてくださいね。



## 賛助会費・ご寄付、ありがとうございました!!

「守る会」に令和5年度も賛助会費・ご寄付を納入頂き、ありがとうございました。令和5年度の賛助会員、ご寄付をいただいた方々をご紹介します。皆様からの会費、寄付は、主にこの会報作り、そして令和5年度は、東北ブロック大会で、有意義に使わせていただきました。

どうぞ、6年度におきましても、宜しく申し上げます。

(順不同にて掲載させていただきました。)

### < 賛 助 会 員 >

盛岡市 村 井 研一郎 様	盛岡市 伊 東 宗 行 様	盛岡市 小野寺 けい子 様
盛岡市 細 田 重 憲 様	盛岡市 木 村 純 子 様	滝沢市 原 瑞 恵 様
北上市 小 原 奈保子 様	奥州市 藤 原 裕 子 様	矢巾町 小松原 弘 子
奥州市 (有)オックス画房 様	奥州市 千 田 恵美子 様	(株)ハピティ 佐藤美智子 様
盛岡市 社会医療法人 智徳会	未来の風 せいわ病院 様	大船渡市 瀧 上 壽 朗 様
盛岡市 (株)IBC岩手放送 様	盛岡市 社会福祉法人 わかば会理事長	鈴木 浩太郎 様
盛岡市 (株)ベルジョイス 様	盛岡市 医療法人日新堂 理事長	八角 有 紀 様
紫波町 特定非営利活動法人	紫波さぶり 様	

### < 寄 付 >

奥州市 後 藤 逸 夫 様	奥州市 後 藤 文 子 様	盛岡市 田 村 輝 雄 様
盛岡市 匿名希望2名 様	一関市 和 泉 勝 彦 様	盛岡市 吉 田 紀 行 様
大船渡市 今 野 敏 江 様	みちのく療育園メディカルセンター「みちのく保護者の会」 様	
(独)国立病院機構 岩手病院	「岩手あすなろの会」 様	岩手県支部 在宅部会
(独)国立病院機構 釜石病院	「しゃくなげ愛育園の会」 様	岩手県支部 母親部会

「書き損じはがき寄付」会員 工 藤 久 江 様

### < 編集後記 >

三年越しの東北ブロック大会が盛会裏に開催されました。本当によかったです。コロナ禍で、開催の可否を始め、暗中模索の準備期間でした。延期を繰り返し、今度こそいざやるぞと、日程を定め下見をし、打ち合わせを繰り返しました。さて、これでOKというところで、全国大会と日程が重なり・・・変更日程は、紅葉の季節に加えて、月末になり費用も上がり手配もどうなるのかと・・・。

やがて予算確定、開催要項送付、送迎や会場設営の打ち合わせ、遠藤実行委員長以下事務局、委員面々の顔色が変わっていきました。想定した人数が来てくれるか、これが一番の心配で、高齢化やコロナ禍の影響がどう出るのか不安が募りました。

しかし、なんと、蓋を開ければ大盛況でした。会員諸兄弟の、顔を合わせて話をする、話を聞く、コミュニケーションへの渴望を強く感じた次第でした。

(和泉 勝彦)



編集者 岩手県重症心身障害児(者)を守る会 岩手県盛岡市三本柳8-1-3 ふれあいランド内  
 発行者 東北障害者団体定期刊行物協会 宮城県仙台市青葉区角五郎1丁目12-6 頒価 100円